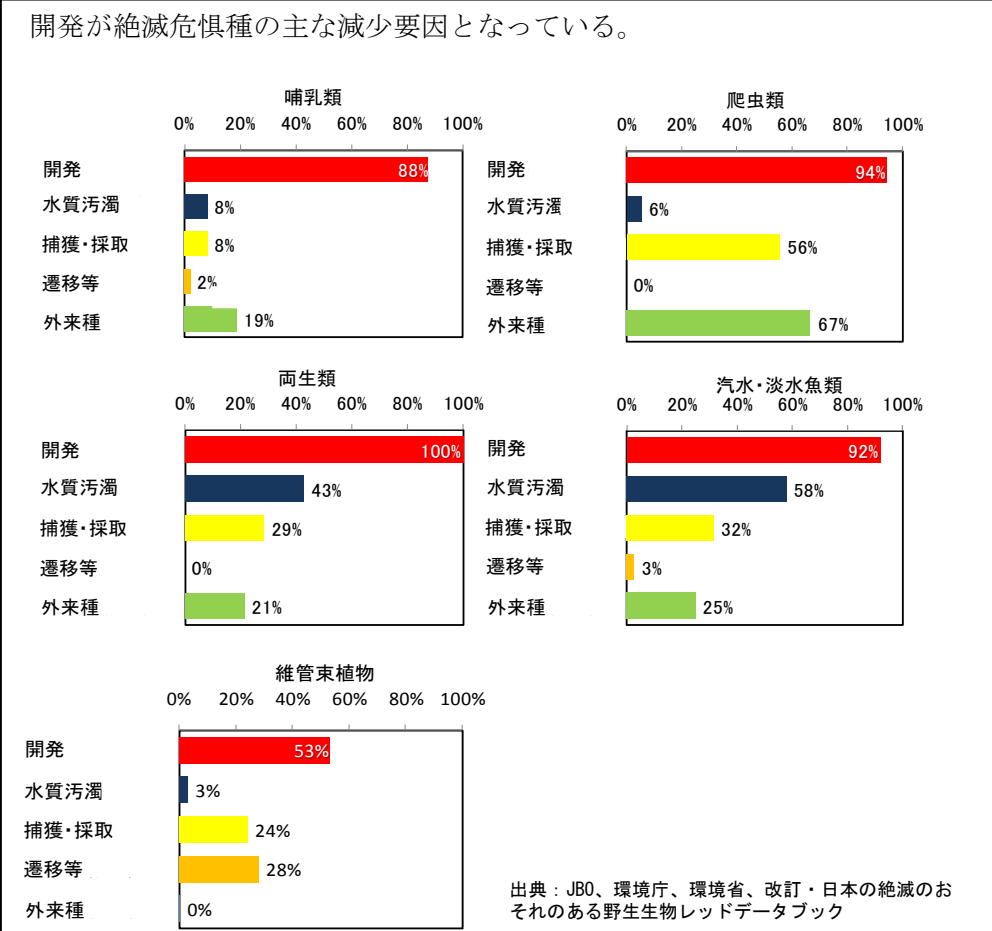


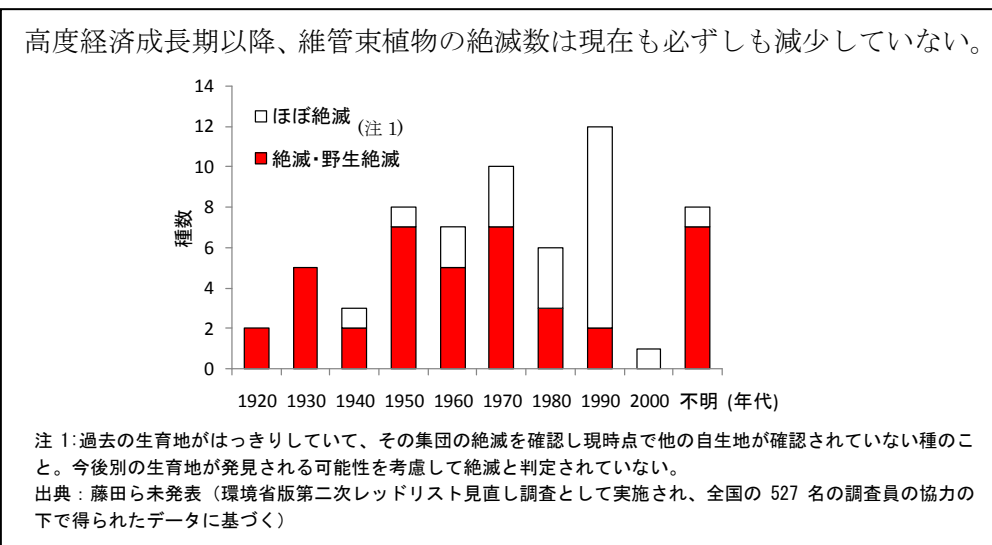
第 1 の危機：人間活動や開発が直接的にもたす種の減少・絶滅や生息・生育空間の縮小、消失

- 高度経済成長期における開発・改変は、過去 50 年間で最大の生物多様性の損失要因である。
- 自然性の高い森林、農地、湿原、干潟といった生態系の規模が著しく減少した。
- 大規模な開発は少なくなっているが、小規模な開発や地域的な開発は依然として見られる。
- 様々な対策が講じられているが、過去に生じた大きな損失は回復していない。

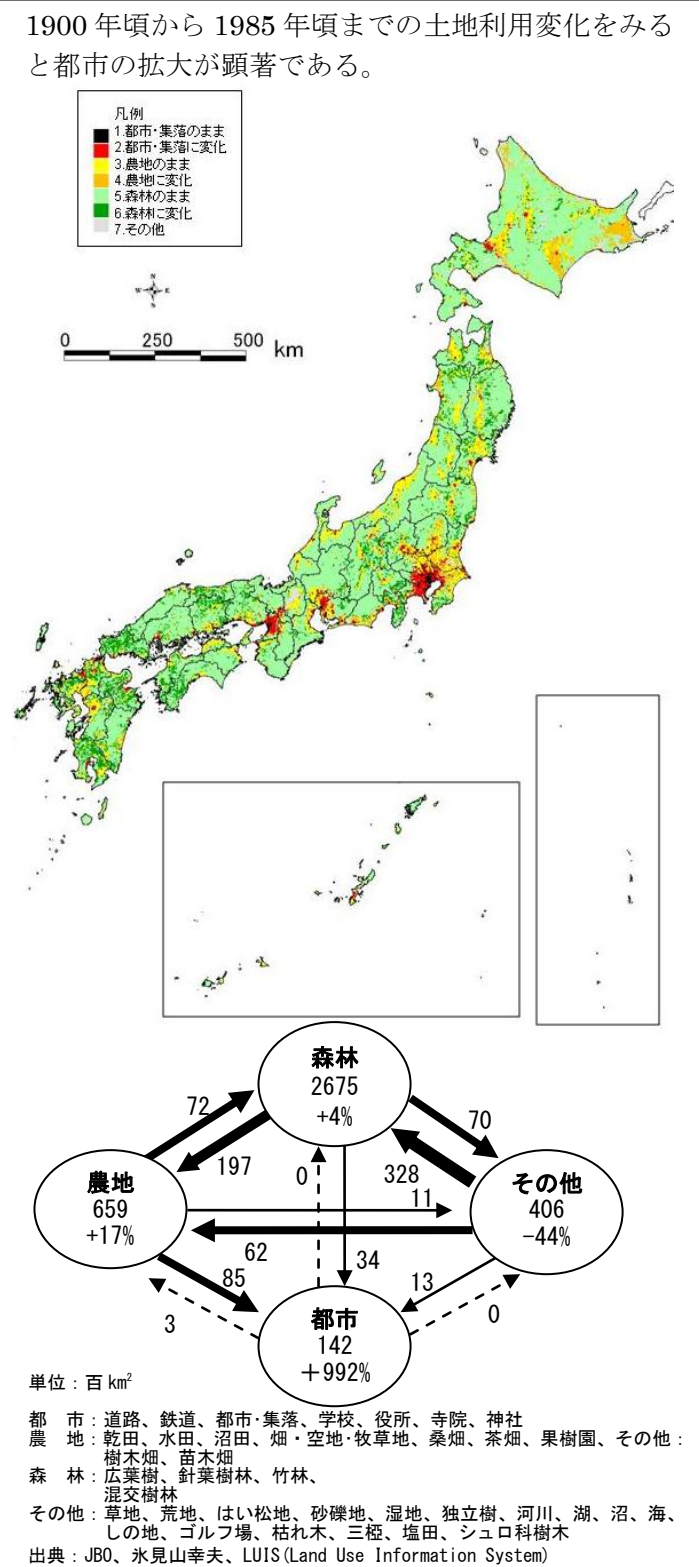
絶滅危惧種の減少要因



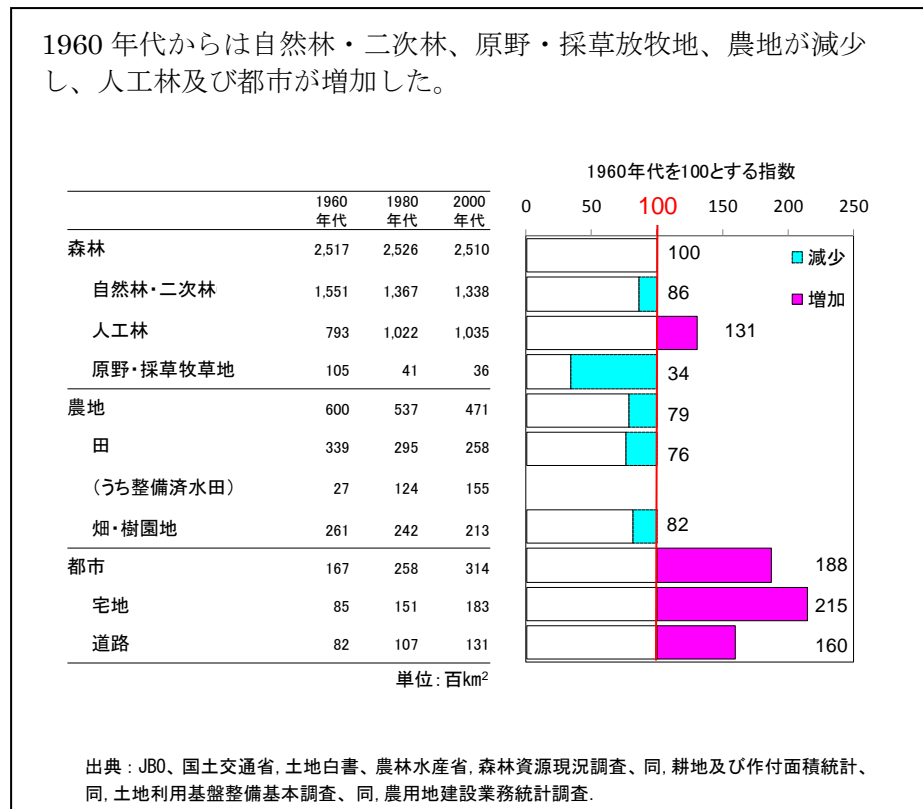
年代別の絶滅種数(維管束植物)



長期的な土地利用の変化



陸域における生態系の規模の変化



陸水域・沿岸域における生態系の規模の変化

